

令和6年2月1日（木） 実施

2024年度大学院法学研究科 特別選考による外国人修士課程入学試験問題

社会科学の基礎学力を試す論文試験（日本語で解答すること。）

受験番号	
------	--

（1） 問題冊子、下書用紙、すべての解答用紙の所定の欄に受験番号を記入すること。（氏名は絶対に記入しないこと。）

問題Ⅰ 次の文章（岡倉天心（桶谷秀昭訳）「茶の本」（原題『THE BOOK OF TEA』一九〇六年、米国フォックス・ダフィールド社初出）同『岡倉天心全集 第一巻』一九八〇年、平凡社より抜粋）を読んで、次の問に答えなさい。

文章非公開

文章非公開

文章非公開

文章非公開

文章非公開

文章非公開

文章非公開

文章非公開

問1 本文中の次の言葉の読みを書き、その意味を説明しなさい。

- ① 審美主義
- ② 所詮
- ③ 帰依
- ④ 唯物主義

問2 本文は、前掲の出典にも示されているとおり、一九〇六年に米国の出版社から刊行された英文著書の日本語訳の一部である。このような背景を踏まえ、傍線部問2は具体的にどのような現象を示すと考えられるか。80字以内で述べなさい。

問3 傍線部問3に凝縮された著者の考えについて、その意義を300字以内で論じなさい。

問題Ⅱ 次の文章（山本龍彦『超個人主義の逆説 AI社会への憲法的警句』弘文堂、二〇二三年より抜粋）を読んで、次の問に答えなさい。

文章非公開

文章非公開

文章非公開

文章非公開

問1 本文中の次の言葉の読みを書き、その意味を説明しなさい。

- ① 懸念
- ② 虚構
- ③ 泡沫
- ④ 脆弱
- ⑤ 駆逐

問2 傍線部について、著者（山本龍彦）は、なぜデジタル化が個人の尊重原理の最も基底的な層を動揺させると考えているのか、その理由を説明しなさい。（150字以内）

問3 傍線部について、著者（山本龍彦）の考える表現の自由のパラダイム転換とはどのようなことを意味しているのかを説明した上で、なぜ表現の自由のパラダイム転換が必要なのかを著者の考えに即して説明しなさい。（200字以内）